

【付録②】

研究分科会アンケート調査実施に関する指針

研究分科会アンケート調査実施に関する指針

はじめに

大学図書館をとりまく環境は変化し続けています。研究分科会の研究活動は実務と結びついたテーマを主眼とされるもので、その過程において現状把握は不可欠です。アンケートは現状調査の有効な手段といえますが、十分な準備が必要な作業でもあります。

分科会活動は自主性が尊重されますが、他大学・機関への協力を求める調査を行う場合は、研究部として共通の認識をもって実施するべきものと考えます。

この度研究部運営委員会ではアンケート調査実施に関する指針を作成しました。

研究分科会の研究活動の中で行うアンケート調査実施にあたっては以下のことに留意ください。

なお、本調査に先立って行うヒアリング調査や模擬調査についてはこの限りではありません。

また、当面の間電子メールやホームページ等を利用した調査をご遠慮ください。主に調査対象となる大学図書館でも電子通信利用環境の整備状況はまちまちであり、回答者側の環境によっては回答者の負担となったり、十分な回答が得られないことが考えられます。また、悪意の有無にかかわらず、無断転送が行われて調査中の内容がその目的と関係なく利用されたり、回答者のプライバシーが守られない恐れがあるためです。

1. 実施の承認について

アンケート調査は、事前に東地区部会研究部担当理事校の承認を得た上で実施してください。

承認を求めるときは、研究分科会代表者から東地区部会研究部担当理事校へ、調査要領（目的、方法、調査対象、スケジュールなど）と調査票（対面調査あるいは、電話で行う場合には調査項目一覧を書面にしたもの）を送付してください。

承認あるいは必要な連絡等は、東地区部会研究部担当理事校から分科会代表者へ文書または口頭か E-mail でいたします。

2. アンケートの発信者について

発信者は次のように明示してください。

「私立大学図書館協会東地区部会研究部〇〇研究分科会（代表 □□大学図書館 代表者氏名）

問い合わせ先： △△大学図書館 担当者氏名 住所・電話番号等

3. アンケートの回収について

- ・依頼時に回収方法を明示してください。
- ・研究分科会会員等による回収の場合もその旨明らかにしてください。
- ・郵送による回収を求める場合には、予め宛先を記入して必要分の切手を貼った返送用封筒あるいは葉書を添えて依頼をしてください。

4. 回答者のプライバシー保護と結果報告について

基本的に無記名調査としてください。記名を求める場合は、回答者のプライバシーを配慮し、匿名性の確保に努めてください。回答者に対しては、プライバシーが守られることとその具体的な方法を示し、事実や本当の意見を回答しても問題がないことを明らかにしてください。

回答者を明らかにすることで調査結果の理解が深まることが期待されるなど、回答者名を公開する場合には、公開の方法や内容について回答者の許諾を得てください。公開方針については、実施承認を求める際、もしくは公開を決めた時点で文書をもって研究部担当理事校に報告してください。

調査の集計結果は回答者へ直接、あるいは調査をまとめて発表した文献の紹介により報告してください。

以下は調査票（質問紙）を用いた不特定多数に対するアンケート調査を前提としていますが、対面調査、電話調査の場合も同様の点にご留意ください。

事前準備と模擬調査を十分に行い、研究部担当理事校の承認を得るための日程の余裕をもって計画してください。

アンケート調査のプロセスと留意点

1. 事前準備

(1) 調査目的の設定

まずアンケートを行う目的を明確にしてください。

アンケートを実施するには多大の労力と時間を必要とします。目的が不明確だと有益な情報は得られません。また本当にアンケート調査が必要なのか十分に検討してください。

(2) 文献調査

事前に、研究テーマの背景や状況について、できるだけ詳しく文献を調べてください。

先行研究を把握しておくことで、アンケート調査の実施を回避することもできます。また、同種の調査が行われていた場合、それを基礎データとしたり、その手法や調査票に検討、批判を加えることでより効果的な調査を行うことができます。

アンケート調査後の集計と解析の過程で文献調査が必要になることもあります。

(3) ヒアリング調査

文献調査とともに、先行研究者や現場の担当者へのヒアリング調査による情報収集も有効です。

調査結果を十分に考察するために、事後のヒアリング調査が必要になることもあります。

(4) 仮説の設定

アンケート調査によって検証することが可能であると思われる仮説を設定してください。仮説の設定理由や背景を明らかにすることも必要です。

仮説は単なる発想にとどまらず、また独断に陥ることを避けるために、事前の調査（文献調査、ヒアリング調査）にのっとりて集団で討議して考え方を整理し、客観的な表現にまとめてください。

最初に立てた仮説が正しいとは限りません。検討を通して修正を繰り返していくことが必要です。仮定は必要ですが、基本的には事実を積み上げるものと考えて、柔軟な姿勢で臨んでください。

(5) 計画の立て方

アンケート調査をした最後の段階では、収集したデータを分析し、まとめる作業があります。

あらかじめ仮説を検証するための集計もしくは分析計画を立て、また分析に用いる手法を明確にしておく必要があります。

アンケートの計画は、この最後のステップから逆に考えていくと、見落としや誤りを小さくできます。

2. 調査票（原案）の作成

(1) フェイスシートの記述

調査の背景となる研究分科会の研究テーマや活動を紹介し、アンケート調査実施の意義を述べてください。「事実を明らかにする」「検証する」といったものでは具体性に欠けます。事前準備でまとめたアンケート調査の必要性や調査対象の抽出理由を明らかにすることによって、回答者が調査の目的を理解し、協力が得やすくなると思われます。

調査の日程、回収方法、集計結果あるいは研究成果の発表手段もここで明らかにしてください。

(2) 回答方式（選択式あるいは記述式）の決定

調査の目的、並びに回答者の負担や集計の手間を考慮して決定してください。

質問によって選択式と記述式を併用することも有効です。

(3) 質問項目の作成

質問文の作成にあたっては必要最小限にすることを基本にして次の点にご注意ください。

- ・回答者全員が正確に質問の意味を正確に理解できるように、曖昧で多義的な、また感覚的な語句を避ける（調査の対象者に対して適当であることが重要であり、安易に他の調査で用いられた語をそのまま転用してはならない）。
- ・客観的な表現を用い、意図的に仮説に誘導しない（同じ質問でもプラス面とマイナス面のどちらを強調するかで受け取る側の判断が異なるため、表現に気をつける）。
- ・事実、意見、評価、希望、賛否、好き嫌いなどのいずれを質問しているのか明確にする。
- ・回答者個（本）人について回答するのか、回答者が属する集団一般について回答するのか明示する。
- ・図、表、絵、写真を効果的に用いる。

(4) 選択回答項目の作成

選択回答項目の作成にあたっては、次の点にご注意ください。

この過程で質問項目の分割，増設が必要になったり，また調査の結果によっては項目の修正，追加，削除が必要な場合もあります。

- ・ 背反かつ網羅的に用意する（必ず「その他」とその具体的な内容を記入する欄を設ける）。
- ・ 複数の解釈ができるものや，複数の回答に分けられるものを1つの回答としてまとめない。
- ・ 回答項目のレベルの整合性を保つ
- ・ 適当な数にする（少なすぎると不十分，多くても10個程度が適当といわれている）。
- ・ 先行研究との比較ができるようなカテゴリーも用意する。
- ・ 集計の際に誰が行っても同一の結果となるような客観的な基準を用意する。

(5) 質問の配列とレイアウト

(2)において質問項目を体系的に列挙しても，その結果できた質問項目が質問の順序として適当であるとは限りません。関連事項が分散しないように類似した内容のものはまとめ，回答者に途中で思考を中断させたり混乱をさせないように考慮してください。

集計時のカテゴリー分けに必要な回答者の属性（性別，年齢，所属集団の規模等）を尋ねる項目は，フェイスシート，質問の冒頭，質問の末尾のいずれかにまとめてください。

選択回答項目の配列も同様に考慮してください。

3. 模擬調査

本調査の実施の前に，調査票の検討を目的とした模擬調査を必ず行ってください。

2. で作成した調査票（原案）を使用し，

- ・ 目的や質問の意味が正確に受け止められるか
- ・ 意図するような内容の調査が可能か
- ・ 用語表現の適切さ
- ・ 選択回答項目の適切さ
- ・ 質問の配列とレイアウトの適切さ、

などについて意見を収集し，内容の再検討とそれに基づく修正をしてください。

そのため，模擬調査の対象には意見を収集しやすい少数の回答者を選び，模擬調査であることを明らかにして行ってください。

以上

参考文献

1. Converse, Jean M. and Stanley Presser. 『アンケート調査』（内藤雅子，酒井亮二訳） 広川書店 1992（ISBN 4567766903）
2. 森靖雄 『やさしい調査のコツ』 大月書店 1989（ISBN 4272310232）
3. 高橋武則，楊国林 『質問紙調査の計画と解析』 文化出版局 1990（ISBN 4579105060）
4. 濱岡豊 「アンケート調査の心構え」 三色旗. No. 559（1998.2） p. 24-31